

# 神戸市バス路線の見直しに関する陳情

陳情第 206号～207号

交通局

陳 情 要 旨 等	
陳情者	神戸市須磨区 小澤 隆行 ほか1名
陳情要旨	<p>「神戸市バス路線の見直しに関する陳情」について  <b>【陳情第 206 号～207 号】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高倉台・多井畑を通る市バス路線は現在の便数を維持すること</li> <li>2. 8月実施予定の須磨エリアの路線廃止は見直すこと</li> <li>3. 75系統など高校生が通学で利用するなど、混雑する路線は増便すること</li> </ol>
陳 情 に 対 す る 神 戸 市 の 考 え 方	
<p>市バス事業は、阪神・淡路大震災等を経て30年間で利用者が半減していることや、少子高齢化や人口減少社会の到来に加え、昨今の原油高・物価高騰による諸経費の増加、さらには全国的な運転士の担い手不足など、事業経営を取り巻く環境は極めて厳しい状況にある。</p> <p>市バス事業は資金不足比率が20%に迫る危機的な状況であり、これを超えると国の指導・管理下で経営再建を進める「経営健全化団体」となり、経営改善に向けた抜本的な対策、具体的には、運賃の大幅値上げ、強制的な路線廃止や大幅な減便など、急激な利用者負担の増加に踏み込まなければならなくなる可能性がある。</p> <p><b>1. 須磨エリアの路線見直しについて</b></p> <p>将来にわたり市民の足を守り、持続可能な公共交通ネットワークを維持していくためには、現状の路線・運行本数をそのまま維持していくことは困難であることから、令和8年8月に須磨エリアを中心とした路線見直しを実施するものである。</p> <p>このたびの須磨エリア（高倉台・多井畑、須磨区南部など）の路線見直しについては、以下の状況を踏まえ、検討を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 須磨エリアの路線の課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>・須磨エリアは、JR・山陽電鉄・市営地下鉄といった鉄道網が比較的充実している一方で、バス路線が並行・重複し、一つの住宅地から複数の鉄道駅へ接続されているなど、非効率な運行となっている区間が多く見受けられた。</li> <li>・利用データ（2タッチデータ）を分析した結果、特定の路線において需要と供給の乖離（過剰な供給や、利用の少ない区間・時間帯）が見られ、それぞれの路線で赤字の状況となるなど、収支状況も大変厳しい状況にあった。</li> </ul> </li> <li>○ 路線見直しの考え方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化が進み、徒歩圏内での買い物が困難な地域や、バス路線が生活に不可欠な地域において、最寄り鉄道駅への移動手段（フィーダー輸送）は確実に確保し、いわゆる「交通空白地」を生じさせないことを基本としている。</li> <li>・その上で、重複路線の整理や、鉄道との役割分担の明確化を図り、人員や車両等の限られた経営資源をより乗車需要の多い時間帯や区間に適正に配分することで、持続可能な路線網への転換を図る。</li> <li>・本見直しにおいては、周知期間および意見集約の期間を十分に確保するため、実施の約半年前の段階で見直し案を公表し、お寄せいただいた意見を通して地域の実情をより深く把握し、「より運行の効率を高める案」、「より多くのご利用が見込める案」、「見直しの作成過程では把握しきれなかった客観的な事実」をお伺いできた場合には、地域の現状に即した有益な情報として、案への反映を含め確認をさせていただいている。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>2. 陳情事項への考え方</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 高倉台・多井畑を通る市バス路線は現在の便数を維持すること</li> <li>② 8月実施予定の須磨エリアの路線廃止は見直すこと <ul style="list-style-type: none"> <li>・高倉台や多井畑等のエリアにおいて、ご高齢の方の通院や買い物など、日常生活における移動手段の確保が重要であることは十分認識しており、路線の見直しや系統の統合にあたっては、住宅地から最</li> </ul> </li> </ol>	

寄り鉄道駅等へのアクセスは引き続き確保している。

- ・一方で、現在の極めて厳しい経営状況において、赤字を放置したまま現行の路線網や便数を維持し続けることは、バス事業そのものの存続を危うくし結果として市民の足を奪うことになりかねない。
- ・また、市バスなどの公営企業は、利用者からの運賃収入で経営を成り立たせる「独立採算」が原則となっている。現在においても、一般会計から必要な支援を受けている状況である。
- ・将来にわたり須磨エリアのバス路線を維持し続けるための不可避の取り組みとして、ご理解をいただきたい。

### ③ 75 系統など高校生が通学で利用するなど、混雑する路線は増便すること

- ・今回の路線見直しにおいても、2タッチデータ等により各時間帯の利用状況をきめ細かく分析している。
- ・ご指摘の75系統をはじめ、沿線に高校や大学が立地し、通学等により混雑が予想される特定の時間帯・路線については、需要に見合った輸送力とすべく、あらかじめ増便・区間便の設定は行っている。

### 3. 今後の対応について

市バス事業を取り巻く環境は依然として予断を許さない状況にある。今回予定している須磨エリアの路線見直しにおいても、実施して完了とするのではなく、見直し後も客観的なデータや市民の声を継続的に分析し、必要に応じてダイヤの微調整や運行形態の改善を図るなど、需要と供給のバランスを図りながら、持続可能な公共交通ネットワークの維持・発展に全力を尽くしてまいりたい。

